

社会科

学習する意義

私たち人間は社会的動物といわれ、社会の中で生きています。しかし、私たちは、自分のまわりの社会について、案外何気なく見過ごしていることが多いものです。あなたが毎日気にとめることもなく通り過ぎていく畑の作物が、地域の自然を背景に、長年にわたる人々の努力の結果生まれた日本一の名産品かもしれません。また、あなた達が勉強や部活動に青春を楽しんでいるその同じかけがえのない日々を、飢(う)えや戦火の中で過ごす13歳もいるのです。知ることで、何か自分にできることを見つけていけるかもしれません。見ているようで見えてない、知らない社会を「見える」ようにしていくのが社会科の意義だといえるでしょう。



「社会科」は、「歴史」「地理」「公民」の3つの分野から成り立っています。1, 2年生で「歴史」「地理」を、3年生で「公民」を学びます。

- ・歴史的分野：私たちの社会は過去から現在へ、どのように歩んできたのかを学び、未来に向けて生きていく指針とする。
- ・地理的分野：自然や人々の生活について、地域によるちがいや変化の様子などを見、現在、同じ時代に生きるさまざまな地域の人々の暮らしを学ぶ。
- ・公民的分野：現在の日本の社会を支える憲法や人権、政治、経済のしくみなどについて学び、社会人として生きていく基礎をつくる。

身につけてほしい社会科の力

①「社会的なことがらへの関心・意欲・態度」

テレビでは、毎日のように旅行番組を放送しています。「おもしろいな」「行ってみたい」と思ったら、それが始まり。興味を持ってアンテナを立てているところへ、情報は集まってきます。授業中の学習内容が自分の生活にぐんと近づくことでしょう。歴史ものの番組やマンガ、ニュース、新聞、目に映る風景すべてが社会科への入り口です。中学生になったからには、毎日のニュースにも関心をもってください。

②「社会的な思考・判断」

社会科は「覚える教科」と思われがちです。しかし、21世紀の現代、科学の発達や情報化、国際化等によって社会はめまぐるしく変化しています。ただ知識をつめこむのではなく、「社会を見る目」を育てていくことがたいせつです。「なぜこうなったのか」と問いかけ、考える力を育てましょう。

③「資料活用の技能・表現」

社会的に考えるときは「ただ何となく」でなく、資料をもとに考えましょう。文章、絵、映像、音声、写真、統計、グラフ等、そして自分の実際の観察や経験、聞き取りなどさまざまな資料を手に入れ、それらを読み取り、関連づけて考えていきます。

分かったことをわかりやすくまとめて発表するのも大切なことです。

④「社会的なことがらについての知識・理解」

知識が多ければ、楽しみもふえます。テストで高得点がとれば自信とやる気につながるでしょう。丸暗記でなく、常に人の姿を意識しながら考えてほしいと思います。

学習のしかた

1 授業について

- ・ノートは地理用，歴史用を1冊ずつ用意する。黒板に黄色で書いた**重要語**はノートに**赤**で書く。教科書の重要部分は蛍光ペンでチェックする。
- ・**取りかかりを早く**。→ゆとりができる。→じっくり考えたり，ていねいな文字で書いたりできる。**ノートを書くとき，説明を聞くときをきちんと分ける**。
- ・読めない文字にはふりがな，分からないことはチェックし，後で調べるか質問する。
- ・先生からの問いかけは**自分の頭で考える**（友だちや先生からの答を待つばかりでなく）。→考えることで思考力が鍛(きた)えられる。自分の発表した内容は頭に残る。
- ・人の意見を**しっかり聞く**。→考えが広がる。互いにみがき合う楽しさ。
- ・ノート→最低限，板書をそのままきちんと写す→+(プラス)メモ書き(気づいたこと等)

2 家庭学習

授業中には納得して分かったつもりが，1日経つと意外と忘れ，1週間でかなりあやしく，1か月経つ頃にはすっかり忘却(ぼうきやく)の彼方(かなた)…。こういう経験はだれにもあるものです。これは私たちの脳の特質なのだそうです(エビングハウスの忘却曲線)。

この脳の働きに対抗する手段は，**学習したその日のうちの復習**です。間(あいだ)をおかずすぐ復習することで，その後の忘れ方がぐっと緩(ゆる)やかになります。そして，学習内容が関連し合って筋道ができると，流れが分かり，単なる記憶ではなく意味のある知識となるのです。

- ①復習…授業のあった日に，教科書やノートを見ながら進んだ分のワーク類をする。
- ②予習…次の予定(教科書2ページ分くらい)の教科書を一通り読んでおく。
- ③プリント類…プリントは大事なことのまとめになっている。専用ファイルをつくってとじていき，テスト前に必ず確認。答合わせが大切。同じ間違いを繰り返さない。

3 学習のポイント

① 学習の基礎となる枠組(わくぐ)みをつくる

(=知識をたくわえる引き出しのラベルを貼る)

膨大(ぼうだい)な量の情報を整理し，頭をすっきりさせるために，知識を整理するための引き出しをつくりましょう。今，全体の中の何を学んでいるのかが分かることが大切。地理では，**3大洋6大陸や主な国，都道府県**，歴史では**各時代の並び**を先に覚えてしまいましょう。

ノートに整理するときには，見開き2ページを1つの時代や地域にあてると見やすいです。

② 地図や年表を活用する。(→関係性が見えてくる)

地名は必ず地図で確認する習慣を。地理では地図，歴史では年表に学習したことをまとめてみましょう。自分で作って書き込むことをおすすめします。

③ 「見る」「書く」「言う」五感で覚えましょう。教科書をじーっとながめているだけではだめ。大切なことは，声に出しながら，ノートに書いていきましょう。